

2 目指すエリアの将来像、将来像実現に向けた取り組みの方向性

エリアのコンセプトに基づく4つの目指す将来像を掲げ、その実現に向けた取り組みの方向性を示す。

市民や来訪者を惹きつけ、仙台の観光交流をリードする

ハード、ソフトの個々の資源の魅力を有機的に結び、掛け合わせることで、エリア全体が魅力にあふれ、季節を問わず市民や観光客など多くの人々の心を惹きつけている。

市民に憩い、安らぎ、学び、交流する場として親しまれるこのエリアは、国内外の来訪者にとっても巡りたくなる場となり、仙台を代表する観光地としての魅力を更に高めている。



<取り組みの方向性>

・観光資源の整備、事業の推進

(例) 仙臺緑彩館を核としたエリア内案内機能の強化、快適な歩行環境の整備、博物館・美術館のリニューアル、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設整備、史跡仙台北城跡整備、青葉山公園整備、西公園再整備

・エリアの資源を生かした観光コンテンツの充実、磨き上げ

(例) 旅行者向けガイド、体験コンテンツ等の充実、エリア内連携による企画



体験コンテンツ専用ウェブサイト「仙台旅先体験コレクション」

・エリア内の魅力を高める施設等の立地促進

(例) エリアの魅力を生かしたレストランやカフェ、快適な休憩スペース、トイレ等の整備



エリアの魅力を生かしたカフェイメージ
出典：上野恩賜公園ホームページ

杜や水と暮らす都市文化を未来に引き継ぐ

天然記念物青葉山、広瀬川、青葉山公園、西公園など、豊かな自然が市民生活の身近にあり、日常的に親しみ、くつろぎ、語り合う場として大切にされている。

豊かな杜や水の恵みが、人々の暮らしを豊かにし、自然と共に生きる文化が杜の都のライフスタイルとして未来に引き継がれている。



<取り組みの方向性>

・憩い、自然に親しめる環境の整備

(例) 歩行環境の整備、休憩スペースの設置、ウォーキング・ランニングコースの充実

・自然に触れる新たな楽しみや学びの機会の提供

(例) 散策コースの紹介、天然記念物や史跡を学ぶツアーの実施、子どもの遊び場の充実

・広瀬川親水イベントの充実

(例) 民間団体のイベント開催への支援



広瀬川での親水イベント
写真提供：(特非)都市デザインワークス



歩行環境の整備(横浜市)
出典：国土交通省資料

歴史や文化・芸術を伝え、創造性を育てる

史跡仙台城跡、瑞鳳殿、仙台市博物館など伊達政宗公以来の歴史を感じさせる拠点、宮城県美術館や音楽ホールなど文化芸術の拠点、災害文化を創造する震災メモリアル拠点等で、様々な

世代の市民による学びや創造的な活動が盛んに行われている。

旅行者等の来訪者は、各種資源に触れエリアの魅力を味わっている。



文化 観光

<取り組みの方向性>

- ・歴史や文化・芸術の資源を生かしたより深い学びや新たな楽しみの提供

(例) 博物館、美術館等の連携・企画、
エリア内ガイドツアー、校外学習、教育旅行メニュー等の充実

- ・音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設を拠点とした新たな文化の創造・発信



校外学習 イメージ



ガイドツアー イメージ



音楽ホールでの公演 イメージ



文化イベント イメージ

学都の知と先端技術で未来社会を牽引する

東北大学、次世代放射光施設（ナノテラス）、仙台国際センター等が多く、学生、事業者、研究者等に活用され、世界をリードする研究や、MICEの実績を通して、新たな交流やイノベーションが生まれている。



提供：東北大学

大学の知的資源や、エリア内で創出される先端技術が市民や来訪者にも開かれ、国内外の人々の学びや生活に寄与している。

MICE 学術 観光

<取り組みの方向性>

- ・エリア内施設や関連事業者との連携によるMICE受け入れ体制の強化とMICE参加者の回遊促進

(例) エリア内施設等調整の仕組みづくり、
エリア内施設を活用したユニークベニユー※、
エクスカーション※等の充実



ユニークベニユー会場としても活用
(青葉の風テラス)

- ・大学が有する知的資源、エリアで創出される先端技術を市民や来訪者に紹介し、活用される機会の充実

(例) 校外学習、教育旅行、企業向け研修や視察等の充実

- ・大学の知見や「防災環境都市」としての発信による、国内外の防災力向上への寄与



第3回国連防災世界会議
2015年3月



東北大学災害科学国際研究所
写真提供：東北大学

(※)
ユニークベニユー：会議・レセプション等の会場として活用できる歴史的建造物や文化施設

エクスカーション：大会開催中や開催後に企画される視察旅行、遊覧旅行

3 4つの将来像の実現に向けた回遊性の向上

4つの将来像の実現により、市民や国内外からの多くの人々が、賑わいや新たな文化を創造しているようなエリアとしていくためには「回遊性の向上」が重要である。

施設間の距離が比較的長く、高低差のあるこのエリアにおける回遊性の向上はもとより、都心部とのつながりや人の流れを意識した都心との回遊性の向上も図ることで、都市全体の魅力、活力の向上につなげていく。

<取り組みの方向性>

エリア内の回遊性向上

- ・ **エリア全体の一体的な情報発信の充実**
(例) エリア共通Webサイトの構築、共通デジタルサイネージの導入、エリア内共通サイン設置
- ・ **エリア内施設等の連携**
(例) 博物館、美術館等の連携・共通企画
- ・ **仙臺緑彩館のエリア内案内機能の充実**
- ・ **国際センター駅を基点としたアクセスの向上**
(例) 仙台北跡へのアクセス向上の検討、新たなモビリティの検討、コミュニティサイクルの充実
- ・ **快適な歩行環境の整備**
(例) バリアフリーエリアの拡充、施設間の移動をスムーズにする歩行者動線の整備、ウォーキング・ランニングコースの充実
- ・ **エリア内の魅力を高める施設等の立地促進**
(例) エリアの魅力を生かしたレストランやカフェ、快適な休憩スペース、トイレ等の整備
- ・ **交通渋滞への対応**
(例) イベント開催時の施設間の連携、地下鉄等の公共交通機関の利用促進



都心との回遊性向上

- ・ **交通事業者等との連携による回遊促進**
(例) 新たなモビリティの検討、MaaSの充実、都心循環バスとの連携
- ・ **居心地がよく巡り歩きたくなるようなウォーカブルなまちなか空間の形成推進**
(例) 定禅寺通活性化推進事業、都心地区のまちづくり団体などとの連携
- ・ **青葉山エリアと都心をつなぐ場の賑わい創出**
(例) 西公園、広瀬川等の活用、イベント等の活動支援
- ・ **エリア内施設と中心部商店街等との連携**
(例) 施設利用者への都心で利用できる特典の付与、MICE開催時のユニークベニューとしての都心の活用
- ・ **青葉山エリア、都心相互の情報発信の充実**
(例) エリア相互を回遊するルートの発信
- ・ **民間事業者、市民活動団体等との連携・支援**



西公園でのイベント



中心部商店街との連携
(サンモール一番町商店街)

第4章 青葉山エリアの将来

1 青葉山エリアでの楽しみ方・過ごし方

歴史や文化施設、大学などの学術施設、豊かな自然など、充実した資源や立地の良さから、市民は日常的にこのエリアを訪れ、また、観光やビジネスなどで訪れる多くの来訪者もこのエリアの魅力を存分に楽しんでいる。その楽しみ方、過ごし方は多様であるが、本ビジョンではこうした様子を一例として概ね10年後を見据えたイメージ図で表現した。

※「イメージ〇」は、22ページ以降に掲載するエリア内の各所での楽しみ方・過ごし方のイメージ図に対応

※イメージ図は現時点で想定しているものであり、今後の事業の進捗等により変わる場合がある

I ~親子で過ごす~

- 地下鉄で国際センター駅まで
家族で博物館へ
- 博物館鑑賞後、青葉山公園へ
中央広場で子どもと体を動かして遊ぶ
⇒イメージ①
- 仙臺緑彩館のカフェでランチ
- 帰りは大橋を渡って、
大町西公園駅から
地下鉄で帰宅

社や水と暮らす都市文化を
未来に引き継ぐ

歴史や文化・芸術を伝え、
創造性を育てる

II ~青葉山を楽しむ~

- 広瀬川河川敷のイベントに立ち寄り
川を眺めながら軽食 ⇒イメージ②
- 国際センター付近から新モビリティで
仙台城跡へ
伊達武将隊等によるショーを楽しむ
⇒イメージ③④
- ライトアップされた
登城路を散策しながら
下り、音楽ホールの
レストランで食事
⇒イメージ⑤

市民や来訪者を惹きつけ、
仙台の観光交流をリードする

社や水と暮らす都市文化を
未来に引き継ぐ

III ~伊達な文化巡り~

- るーぷる仙台で瑞鳳殿へ
- 仙臺緑彩館へ移動し、
歴史・自然ガイドツアーに参加
東北大学植物園などを散策 ⇒イメージ⑥
- 再びるーぷる仙台で大崎八幡宮へ
参拝後、都心へ移動し、
中心部商店街で買い物

市民や来訪者を惹きつけ、
仙台の観光交流をリードする

歴史や文化・芸術を伝え、
創造性を育てる

IV ~文化芸術を味わう~

- 地下鉄東西線で川内駅まで
美術館で絵画を鑑賞する
- 音楽ホール等複合施設で
震災メモリアルの展示を見たのち公演鑑賞
⇒イメージ⑤
- 西公園のイベントを眺めながら定禅寺通へ
鑑賞者特典の
クーポンを使って
仙台グルメを堪能

歴史や文化・芸術を伝え、
創造性を育てる

市民や来訪者を惹きつけ、
仙台の観光交流をリードする

V ~アフターMICE~

- 地下鉄東西線で国際センター駅まで
国際センターで会議
- 会議の合間に仙台城跡を見学
- 会議後、仙臺緑彩館を会場とした
レセプションに参加
⇒イメージ⑦
- 地下鉄で都心へ移動
国分町の飲食店で
参加者による懇親会

学都の知と先端技術で
未来社会を牽引する

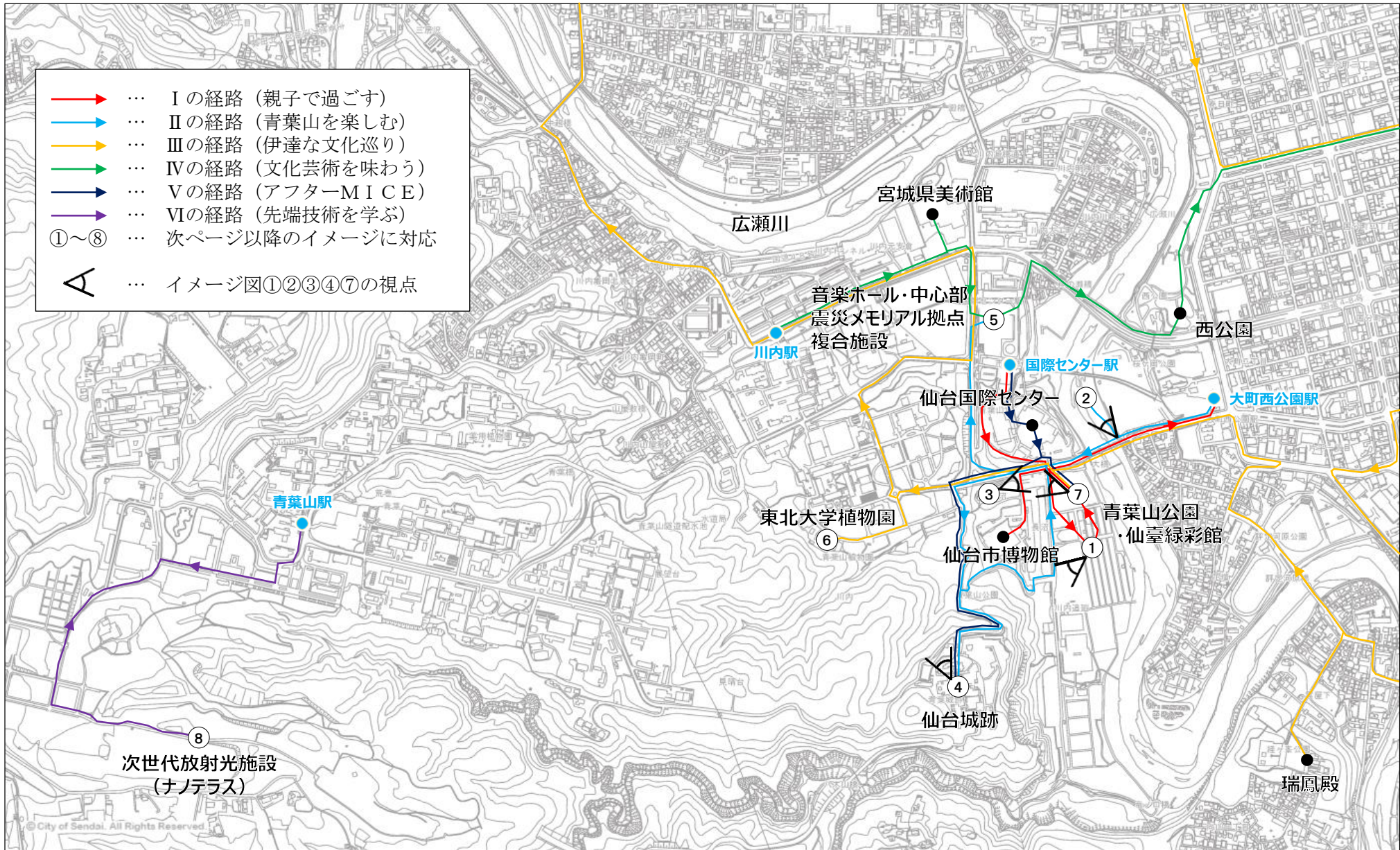
市民や来訪者を惹きつけ、
仙台の観光交流をリードする

VI ~先端技術を学ぶ~

- 地下鉄東西線で青葉山駅へ
次世代放射光施設（ナノテラス）へ
新モビリティで移動、見学 ⇒イメージ⑧
- 解散後、グループ別自由行動
 - ・国際センターからコミュニティサイクルで
エリア内施設めぐり（共通チケット）
 - ・仙臺緑彩館を起点としたガイドツアー
に参加
 - ・地下鉄で都心へ
商店街めぐり

学都の知と先端技術で
未来社会を牽引する

市民や来訪者を惹きつけ、
仙台の観光交流をリードする



①青葉山公園から仙台城跡を望む“政宗ビュー”

➤ 植生の修景により、仙台城跡の城郭らしい景観“政宗ビュー”が実現



➤ 中央広場には、親子が体を動かして遊ぶ姿、お弁当を広げる姿も

➤ 公園から出発する、歴史・自然ガイドツアーに参加する人々の姿も

② 広瀬川河川敷（西公園側）

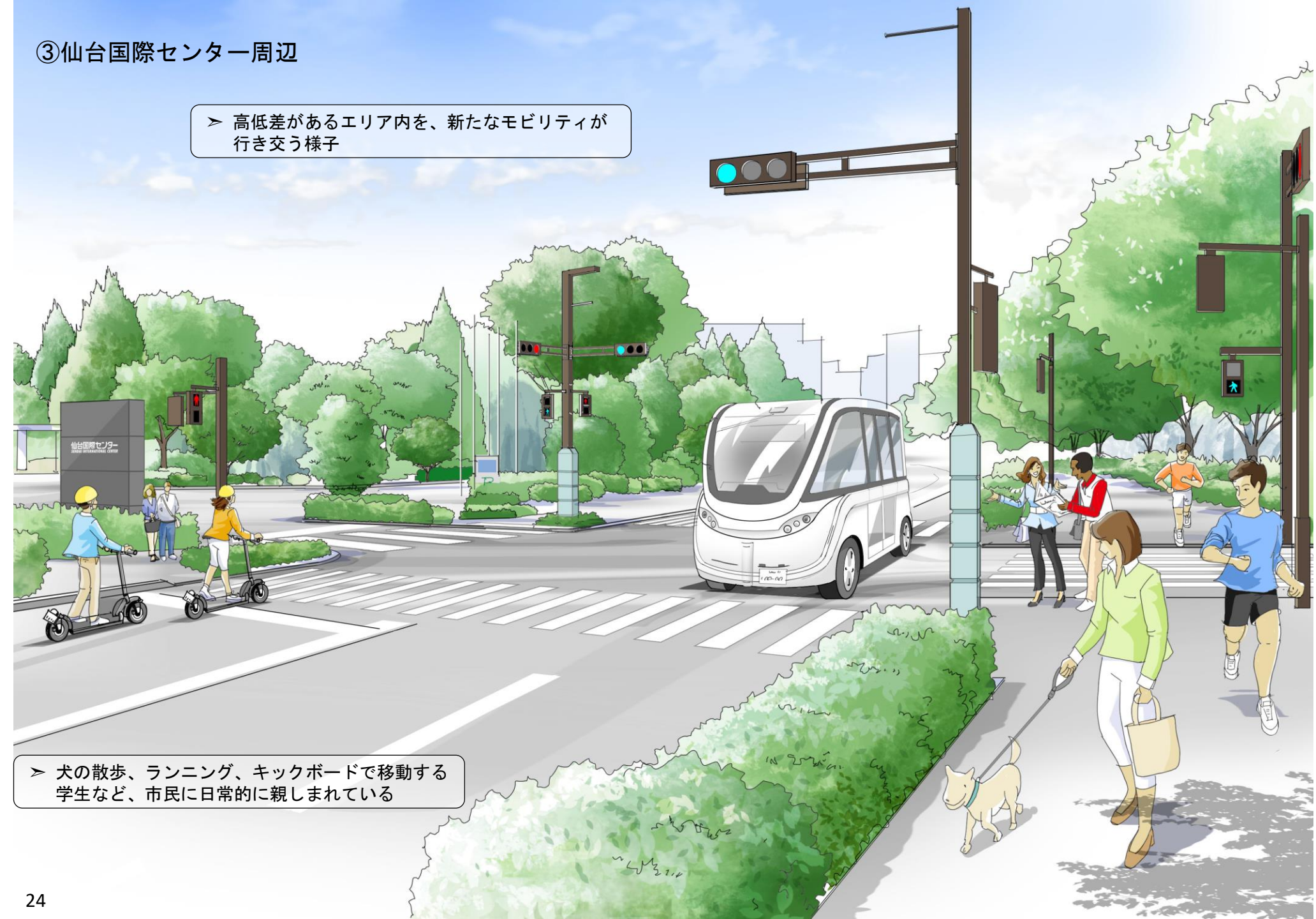
➤ イベントに活用され、市民でにぎわう広瀬川



➤ イベント時に川の魅力満喫。青空の下、河川敷でたたずむ人々、川遊びをする子どもたち、カヌーやSUP体験を楽しむ人々の姿も

③仙台国際センター周辺

➤ 高低差があるエリア内を、新たなモビリティが
行き交う様子



➤ 犬の散歩、ランニング、キックボードで移動する
学生など、市民に日常的に親しまれている

④ 仙台城跡

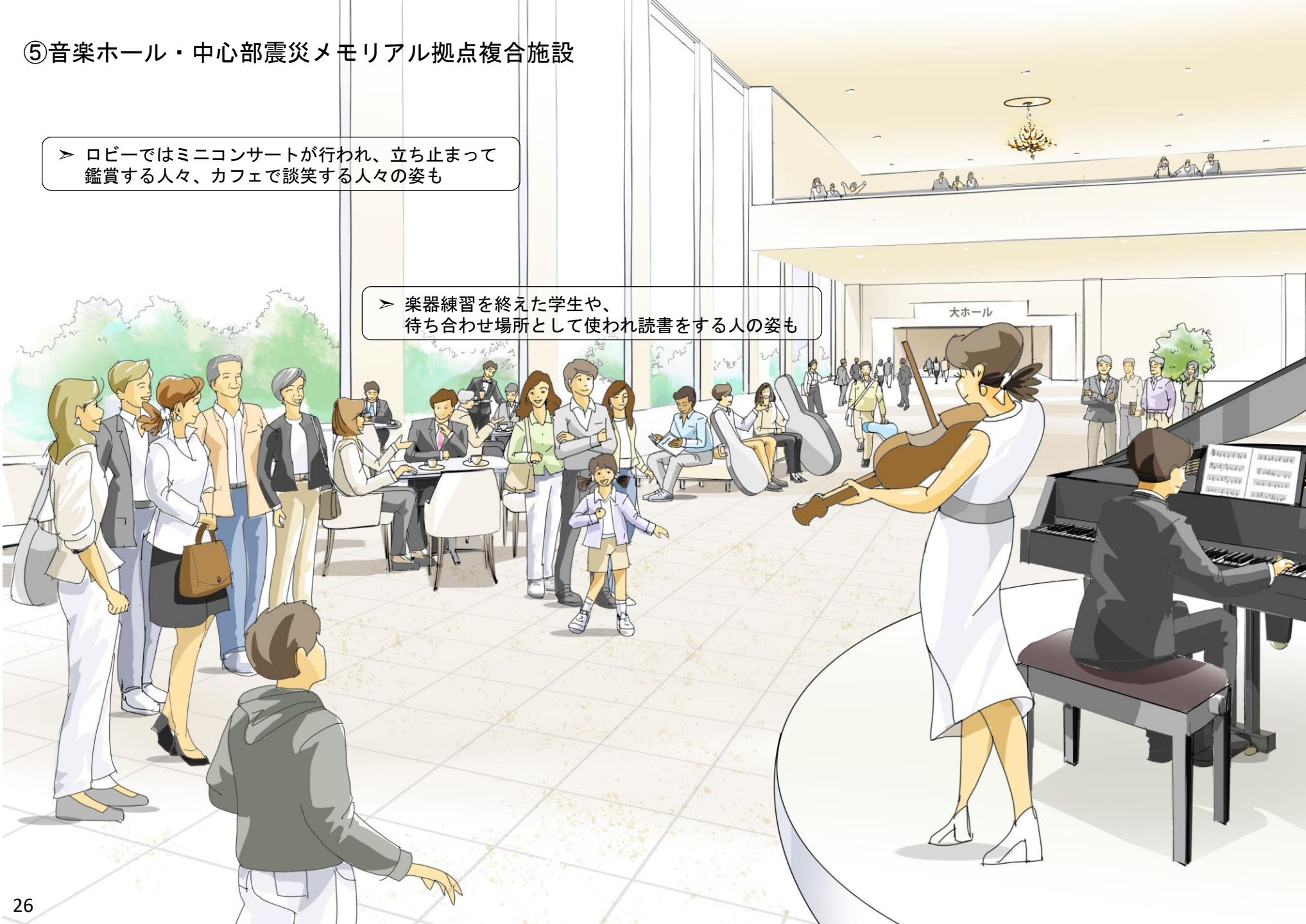
➤ 市内の夜景を一望できる仙台城跡。
ライトアップされた騎馬像前で、武将隊による
エンターテインメントを楽しむ人々でにぎわう



⑤ 音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設

➤ ロビーではミニコンサートが行われ、立ち止まって鑑賞する人々、カフェで談笑する人々の姿も

➤ 楽器練習を終えた学生や、待ち合わせ場所として使われ読書をする人の姿も



⑥東北大学植物園（天然記念物青葉山）

➤ 市民に開かれ、散策やスケッチする人々が訪れている



➤ 天然記念物青葉山を保全するほか、国内から収集された野生植物を植栽展示。青葉山の自然や植物学などの屋内展示も

⑦青葉山公園・仙臺緑彩館



➤ 学会関係者が公園にテーブルを並べてレセプション。
スーツスタイルで議論に花を咲かせている

⑧東北大学サイエンスパーク、次世代放射光施設（ナノテラス）

➤ 教育旅行で施設見学。説明を受ける学生グループ

➤ 研究者や学生、事業者が集まり、行き交う姿も



2 ビジョンの実現に向けて

本ビジョンが示す目指す将来像の実現により、一層の交流人口の拡大を図るためには、エリアにある個々の施設、事業等の取り組みはもとより、これら相互の連携により相乗効果を生み出し、エリア全体の魅力、ブランド力を高めていく視点が重要である。こうしたことから、エリアに関わる多様な主体間の連携を強化し、ビジョン実現に向けた様々な取り組みを推進していく。

➤ ビジョンの共有

本ビジョンの実現に向けては、本市やエリア内の関係者のみならず、広く市民、経済界などの理解、協力を得ながら進めていくことが必要であり、エリアの目指す方向性、今後の具体の取り組みなどについて広報、周知を図っていく。

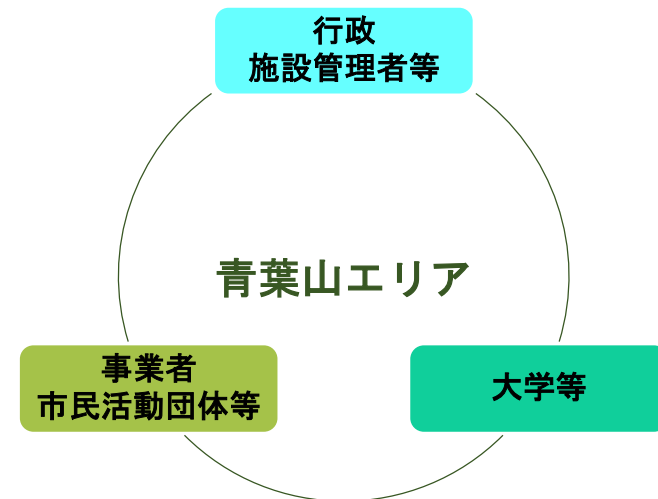
➤ 本市における推進体制

史跡仙台城跡整備、公園整備、広瀬川、観光、MICE、文化芸術、産業振興など、エリアに関連する事業は多岐にわたることから、庁内関係部局間の緊密な情報共有のもと、組織横断的に各種の検討や調整を行い、実効性のある施策の展開を図る。

➤ エリア関係機関、団体等との連携

行政、事業者、大学等のエリアに関する様々な主体が連携しながらエリア全体としての情報発信の充実や回遊性の向上に向けた取り組みなどを推進していく。

エリア全体で取り組みを効果的に推進するための仕組みや、その中心となる組織のあり方等について検討を進める。



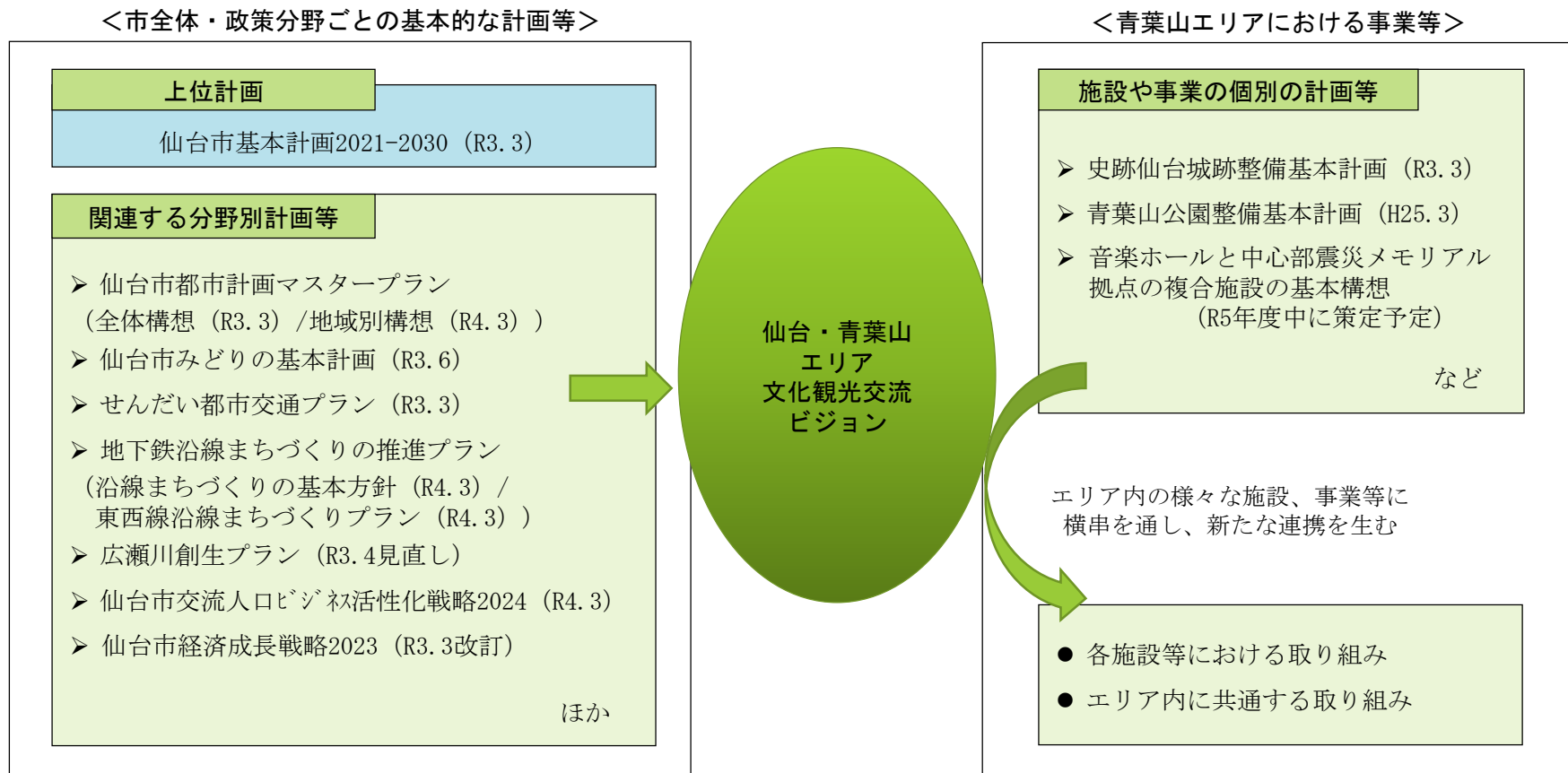
関係機関、団体等の連携により、一体的に事業を推進

【参考資料】

1 本市各種計画等における青葉山エリアの位置付け

(1) ビジョンの位置付け、他計画等との関係

本ビジョンでは、本市基本計画をはじめ、エリアに関連する分野別計画を踏まえ、青葉山エリアに特化した方向性を示す。また、エリア内における各種事業や、様々な施設による取り組み等を踏まえ、新たな連携の創出を図る。



(2) 市全体・政策分野ごとの基本的な計画等

▶ 仙台市基本計画 (令和3~12年度)

本市のまちづくりの指針。まちづくりの理念、目指す都市の姿とその実現に向けた施策の方向性を示している。

【まちづくりの理念】

挑戦を続ける、新たな杜の都へ ~ “The Greenest City” SENDAI ~

【4つの目指す都市の姿】(抜粋)

- 杜の恵みと共に暮らすまちへ
 - ・「杜の都」の豊かな自然と、市民の暮らしや都市機能が調和した、世界に通用する風格を備え、住みよさを実感できるまち
 - ・「仙台防災枠組2015-2030」の採択地にふさわしく、自然と人の力を活かした災害対応力に備え、国内外の防災力の向上に貢献できるまち
- 多様性が社会を動かす共生のまちへ
- 学びと実践の機会があふれるまちへ
- 創造性と可能性が開くまちへ
 - ・東北と世界を結びつけるハブとしての機能を持つ都市として、グローバルな経済活動や、だれもが楽しめる多彩な交流が生まれるまち

【8つのチャレンジプロジェクト】

(抜粋)

目指す都市の実現に向け、重点的に取り組むプロジェクト。施策の方向性を示している。

- 1 杜と水の都プロジェクト
 - ・「杜の都」の象徴となる都心空間をつくる
 - ・みどりを楽しめる生活空間をつくる
 - ・水辺を楽しめる親水空間をつくる
- 6 ライフデザインプロジェクト
 - ・まちの至る所で学びと実践の機会がある環境をつくる
- 7 TOHOKU未来プロジェクト
 - ・仙台・東北の産業の成長を支える
 - ・仙台・東北に世界中から人を呼び込む
- 8 都心創生プロジェクト
 - ・イノベーションが生まれる都心をつくる
 - ・まちの回遊性を向上する

実現に向けての施策

国際学術文化交流拠点

青葉山周辺においては、次世代放射光施設の整備推進や産学官金連携による研究開発拠点の集積を図るなど、国際的な学術文化・交流機能の充実を図る。青葉山公園において、「杜の都」の歴史や文化、自然環境を発信する拠点の整備を推進するとともに、コンベンション機能やミュージアム機能の強化に取り組み、広域的な交流機能の充実を図る。

▶ 仙台市都市計画マスタープラン

~都市計画に関する基本的な方針2021-2030~ (令和3~12年度)

本市の都市計画に関する基本的な方針。都市づくりの目標像とその実現に向けた基本方針を示している。

【都市づくりの目標像】

選ばれる都市へ挑戦し続ける“新たな杜の都”
~自然環境と都市機能が調和した多様な活動を支え・生み出す持続可能な都市づくり~

【選ばれる都市の実現に向けて】

- 「働く場所」として選ばれる都市
- 「学ぶ・楽しむ場所」として選ばれる都市
- 「暮らす場所」として選ばれる都市



【都市づくりの基本方針】(抜粋)

- 1 魅力・活力ある都心の再構築
- 2 都市機能の集約と地域の特色を生かしたまちづくり

方針2-2 各拠点の機能強化

青葉山周辺の国際学術文化交流拠点においては、次世代放射光施設の整備の推進や、産学官金連携による研究開発拠点の集積を図るなど、当該施設を核として国際的な学術文化・交流機能の充実等を図る。

- 3 質の高い公共交通を中心とした交通体系の充実
- 4 杜の都の継承と安全・安心な都心環境の充実
- 5 魅力を生み出す協働まちづくりの推進

▶ 地下鉄沿線まちづくりの推進プラン (令和4~12年度)

都市計画マスタープランを上位計画とし、機能集約型の都市づくりを着実に推進するための都市軸におけるまちづくりの推進計画。地下鉄沿線まちづくりの方向性とその実現に向けた施策を示す。

【沿線まちづくりの方針】(抜粋)

- 「賑わいが生み出される活力あるまち」の創造
- 「多種多様な資源を体験できる魅力的で楽しいまち」の創造

▶ 仙台市みどりの基本計画（令和3～12年度）

本市の緑の都市像や施策について定めた総合的な計画。

伝統ある「杜の都」の風土を生かし、市民協働で取組んできた「百年の杜づくり」を継承し、みどりで選ばれる新たな杜の都の実現を目的とする。

【基本理念】

百年の杜づくりで実現する新たな杜の都～みどりを育むひと、みどりが育むまち～

【基本方針】（抜粋）

- みどりで選ばれるまち
→ 都心部の活力・にぎわいの創出
(青葉山公園整備事業、西公園再整備事業)
- みどりを誇りとするまち
→ 都心部の「みどりの回廊づくり」
→ 仙台ならではのみどりの活用
(仙台北城跡整備事業)

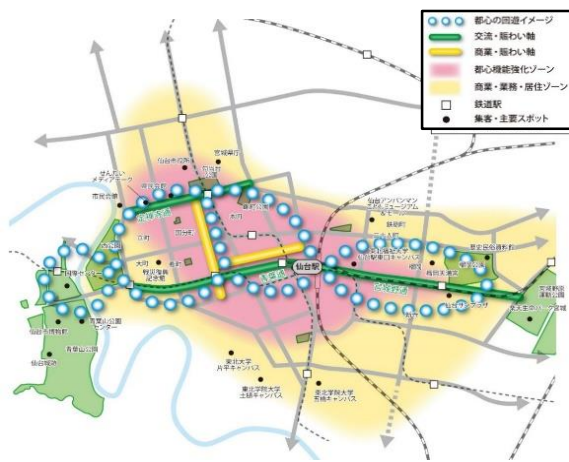


▶ せんだい都市交通プラン（令和3～12年度）

本市の交通の将来目標や基本方針、目指す将来の交通体系等を示す、本市における交通政策の指針。

【基本方針】（抜粋）

- 1 質の高い公共交通を中心とした都市交通の充実
- 2 賑わい創出に向けた都市交通環境の再構築
→ 居心地が良く歩きたくなる歩行者空間の創出
→ 公共交通や自転車を利用した快適な移動環境の整備 ほか
- 3 多様な都市活動を支える交通政策の推進



▶ 広瀬川創生プラン（平成27～令和6年度）

広瀬川の豊かな自然環境の保全や安全安心な川づくり、新たな魅力の創出を図ることを目的とする。

【基本理念】（抜粋）

広瀬川と共生する暮らしの発見と創出

【基本目標】（抜粋）

- 治水・利水・親水の推進
→ 水辺空間を楽しめる取組み

▶ 仙台市交流人口ビジネス活性化戦略2024（令和4～6年度）

人口減少が進行する中、コロナ禍を経て激化する都市間競争を見据えながら、本市の地域経済を持続的に発展させるために、交流人口の早期回復とさらなる拡大、交流人口ビジネスの活性化を図ることを目的とする。

【重点プロジェクト】（抜粋）

- エリア別ブランディングプロジェクト
 - ・ 地域の特徴を活かしたブランディング
《青葉山エリアブランディング》
歴史的な重みがある地域であると同時に、「国際学術文化交流拠点」である青葉山エリアの魅力を高め広く発信
- インバウンド& MICE強化プロジェクト
 - ・ MICE誘致の強化
G7関係閣僚会合等の政府系国際会議や経済効果の高い大規模コンベンション誘致を強化するとともに、企業系会議等の誘致を進める。また、ユニークベニューの開発やMICE参加者の回遊促進、事業者との連携によるMICE受入体制の強化を図る。

▶ 仙台市経済成長戦略2023（令和元～5年度）

仙台・東北で暮らす人々が、経済的な豊かさを得られるのはもちろんのこと、社会的課題の解決が進むことによる生活の質の向上や、精神的な豊かさなどを実感できる未来を目指す。

【重点プロジェクト】（抜粋）

- 次世代放射光施設立地を最大限に生かす「光イノベーション都市・仙台」
 - ・ 次世代放射光施設の立地を、仙台・東北の産業におけるイノベーションや付加価値の創出などにつなげ、地域経済への波及効果を最大限生み出す「光イノベーション都市」実現を目指す。

(3) 青葉山エリアにおける事業等

➤ 史跡仙台城跡整備基本計画 (令和3～20年度)

国指定史跡仙台城跡の整備基本計画。仙台城跡の本質的価値を顕在化し、理想とする仙台城跡の姿を実現するため、整備の具体的な方針や方法を明示することを目的とする。

【コンセプト】

「仙台」発祥の地 仙台城跡を
より城郭らしく 地域の誇りと愛着を育む場へ
～新たな杜の都にふさわしい歴史的眺望 “政宗ビュー” の実現～

【基本理念】(抜粋)

- 仙台の象徴として守り伝える歴史・文化的遺産
 - ・ 仙台の象徴であり歴史の原点である仙台城跡を市民の誇りとして次世代へと確実に継承する
- 安全・快適に史跡に親しみ学べる地域の城
 - ・ 様々な来訪者が城内を回遊しながら史跡に親しみ、その歴史や価値を学ぶことができる整備を行う
- 仙台のまちづくりと地域の活性化へつなぐ観光資源
 - ・ 地域活性化に資する観光資源として魅力ある整備を行い、多くの来訪を促す。

【基本方針】

- 1 継続的な調査研究と維持管理による、遺構・遺物の保存と次世代への継承
- 2 城郭らしい景観の顕在化および眺望の確保
- 3 安全・安心・快適な城内環境の実現
- 4 来訪者の回遊性向上
- 5 様々な来訪者への適切な対応
- 6 史跡情報の積極的公開・活用・広報
- 7 市民協働・地域との連携推進



➤ 青葉山公園整備基本計画 (平成9～令和8年度 ※平成25年3月見直し)

仙台の礎である仙台城跡を含む青葉山と広瀬川に囲まれた区域について、藩政時代からの歴史的・文化的資源や優れた自然景観を生かしながら、市民や仙台を訪れた人が親しむことのできる杜の都のシンボルとなる公園として整備。

【計画テーマ(将来像)】

仙台の誇りを育み、心に染み入る歴史と自然の景域づくり

「百年の杜づくり」のシンボルとして、自然、歴史、文化等の仙台を代表する資源を多様な主体により、ソフト、ハード両面から機能発揮を図り、仙台発祥の地としての誇りと心を守り、育て、未来に伝える取組を目標とする。

【基本方針】(抜粋)

- 1 広域的な視点による計画
 - ・ 周辺地区の緑や施設と連携した公園づくり
- 2 百年の杜づくりのシンボルとなる歴史的資源・自然資源の保全と活用
- 3 地域資源を活かした市民活力の場の創出
 - ・ 優れた地域資源を活用した魅力ある空間をベースとした活動の場づくり
 - ・ すべての市民に愛され、地域の遺伝子を継承する公園づくり
- 4 杜の都仙台を代表する品格ある公園づくり
 - ・ 藩政時代から継承されてきた地域の資源を活かした仙台式の創造
- 5 地域の特色ある景域と景観軸の活用



いこい・にぎわいゾーン

2 エリアに関するデータ

青葉山エリアは、本市の主要観光地であるとともに、国際会議開催拠点となっている。

(1) 観光客入込数について

- 本市全体の観光客入込数は、平成23年以降増加傾向をたどり、平成27年に過去最高の2,229万人を記録。令和元年まで横ばいで推移していたものの、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により激減
- 「仙台城跡・瑞鳳殿・博物館」の観光客入込数は、新型コロナウイルス感染症以前の令和元年は約101万人を記録している

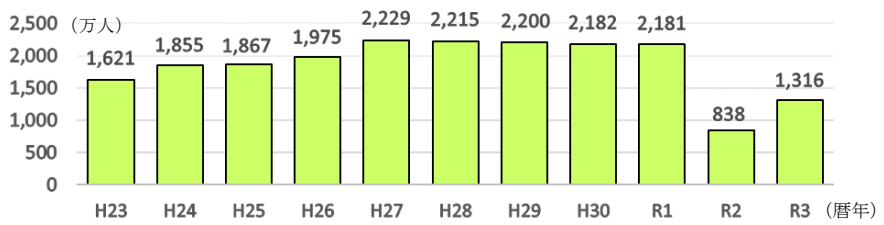
「観光客入込数」について
観光庁の「観光入込客統計に関する共通基準」に基づき、市内の観光施設、温泉施設、観光イベント等の入込客数を調査集計

(2) 国際会議開催状況について

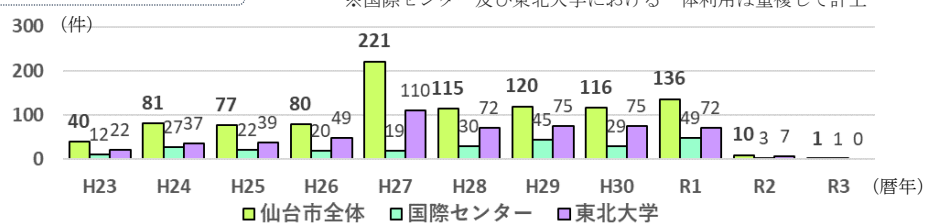
- 本市全体の国際会議開催件数は、平成27年に国連防災世界会議の開催や地下鉄東西線の開業により急増し、過去最高の221件を記録。平成28年以降は120件前後で推移したものの、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により激減
- 会場は「国際センター」及び「東北大学」が開催件数及び参加者数の大半を占めている

「国際会議」の基準について（JNTO国際会議統計）
主催者：「国際機関・国際団体（各国支部を含む）」又は「国家機関・国内団体」（「公共色を帯びていない民間企業」以外は全て。）
参加者総数：50名以上
参加国数：日本を含む3居住国・地域以上
開催期間：1日以上

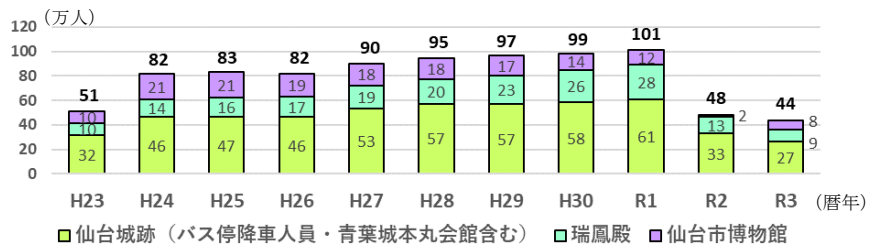
① 仙台市全体の観光客入込数の推移



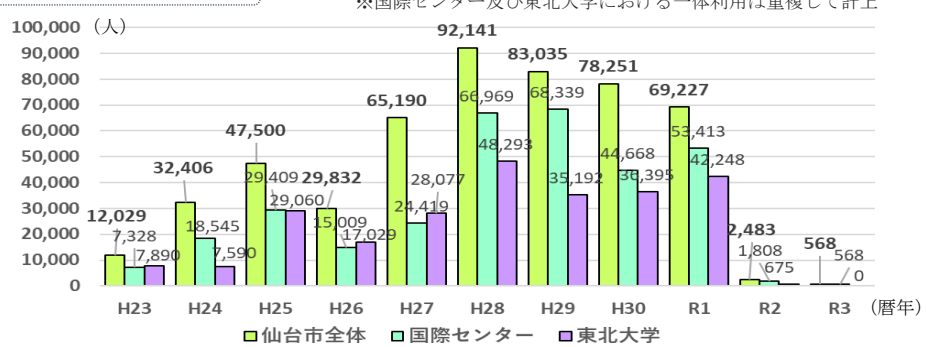
① 開催件数の推移



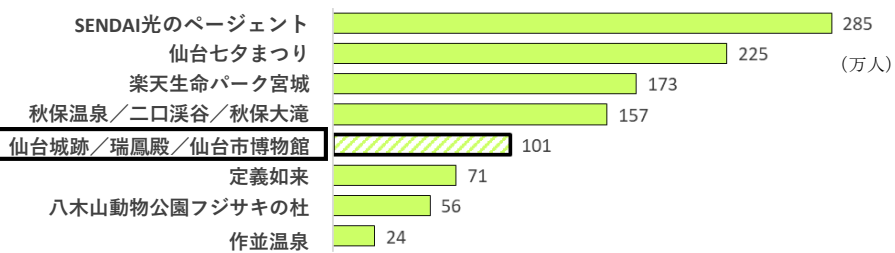
② 仙台城跡・瑞鳳殿・博物館の観光客入込数の推移



② 参加者数の推移



③ 主な観光地点・行催事・イベントにおける観光客入込数 (令和元年)



③ コンベンション開催実績

■ 主な政府系国際会議		■ 主な学術集会	
H27	第3回国連防災世界会議 (6,500名)	H28	第80回日本循環器学会学術集会 (15,000名)
H28	G7仙台財務大臣・中央銀行総裁会議 (800名)	R1	第62回日本糖尿病学会年次学術集会 (12,000名)
H29	世界防災フォーラム/防災ダボス会議 @仙台2017 (947名)	R2	第31回日本老年学会総会 (9,500名)
R1	第31回OIEアジア・極東・太平洋地域総会 (110名)	R2	第17回世界地震工学会議 (現地271人、オンライン2,852名)

(暦年)

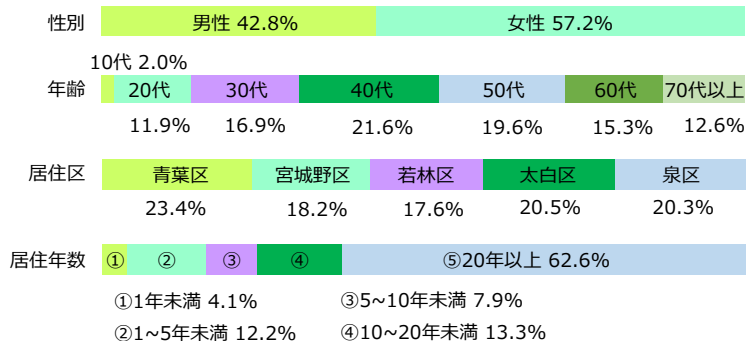
①「仙台市観光統計基礎データ」より
②③「Data仙台2021」より

③ (公益) 仙台観光国際協会ホームページ等より

3 エリアに関するアンケート調査

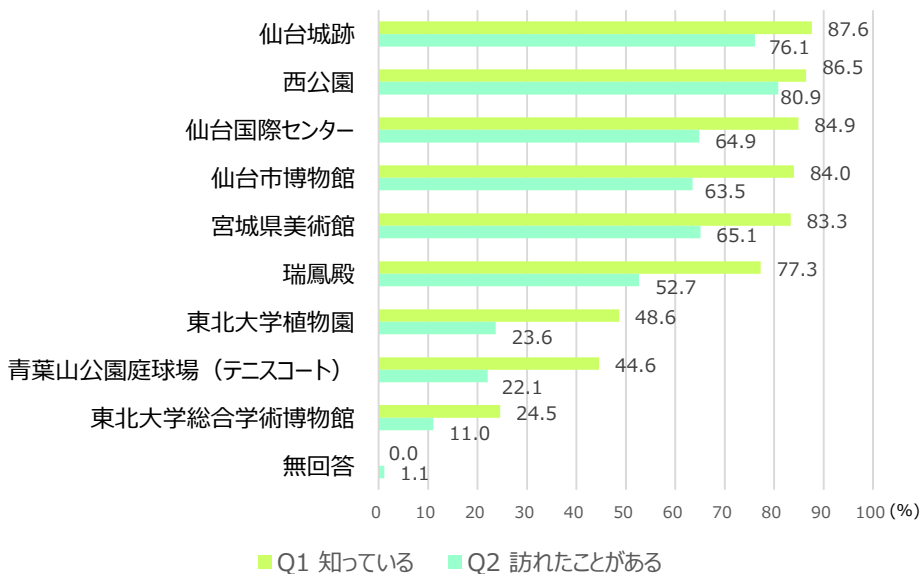
(1) 青葉山エリアに関する市民アンケート（令和4年5月～6月 仙台市実施）

(ア) 回答者プロフィール（N = 444）



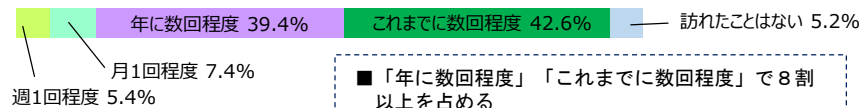
(イ) 青葉山エリアに関する質問

Q1 「青葉山エリア」内で知っている施設等をすべて選択してください（N = 444）
 Q2 「青葉山エリア」内で訪れたことがある施設等をすべて選択してください（N = 444）



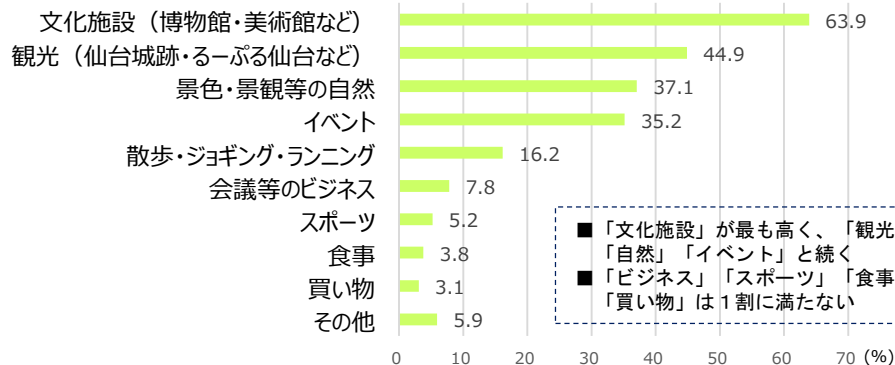
■ 認知度、来訪経験のいずれも「仙台城跡」「西公園」が上位を占めている

Q3 「青葉山エリア」をどのくらいの頻度で訪れますか（N = 444）



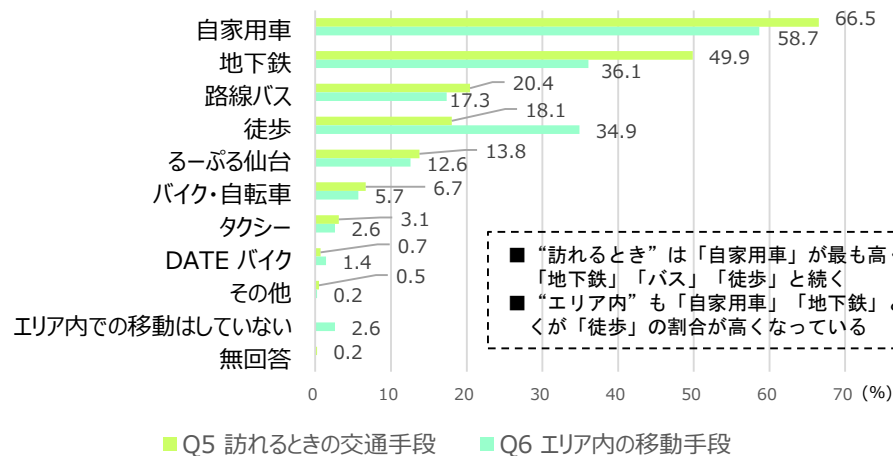
■ 「年に数回程度」「これまでに数回程度」で8割以上を占める

Q4 「青葉山エリア」を訪れた目的を選択してください（頻度の高いものから3つまで）（N = 421、Q3での「訪れたことはない」を除く）



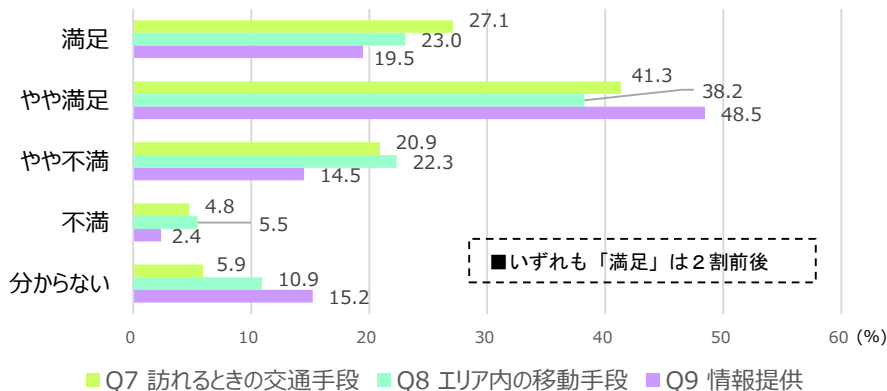
■ 「文化施設」が最も高く、「観光」「自然」「イベント」と続く
 ■ 「ビジネス」「スポーツ」「食事」「買い物」は1割に満たない

Q5 「青葉山エリア」を訪れるときの主な交通手段を選択してください（頻度の高いものから3つまで） Q6 「青葉山エリア」内の主な移動手段を選択してください（頻度の高いものから3つまで） （いずれもN = 421、Q3での「訪れたことはない」を除く）

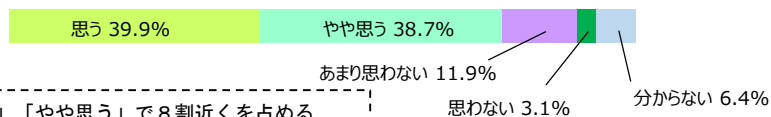


■ 「訪れるとき」は「自家用車」が最も高く、「地下鉄」「バス」「徒歩」と続く
 ■ 「エリア内」も「自家用車」「地下鉄」と続くが「徒歩」の割合が高くなっている

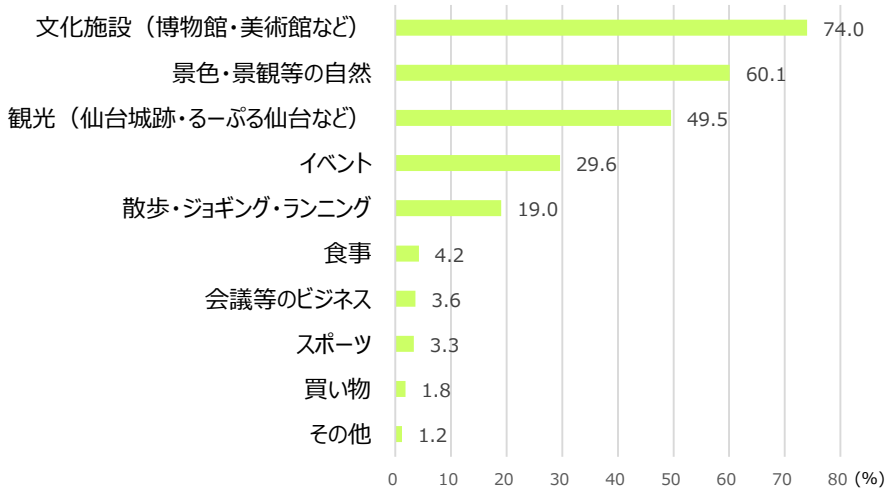
Q7 「青葉山エリア」を訪れるための交通手段に関する満足度についてお伺いします
 Q8 「青葉山エリア」内の移動手段に関する満足度についてお伺いします
 Q9 「青葉山エリア」の情報提供（訪れるきっかけ）に関する満足度についてお伺いします
 （いずれもN = 421、Q3での「訪れたことはない」を除く）



Q10 「青葉山エリア」をまた訪れたいと思いますか（N = 421、Q3での「訪れたことはない」を除く）

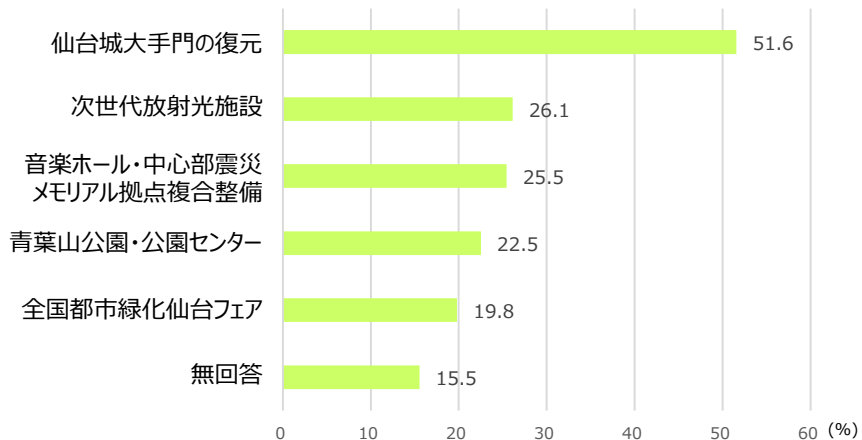


Q11 「青葉山エリア」をまた訪れたいと思う目的を選択してください（3つまで選択）
 （N = 331、Q9で「思う」「やや思う」を選択した方）



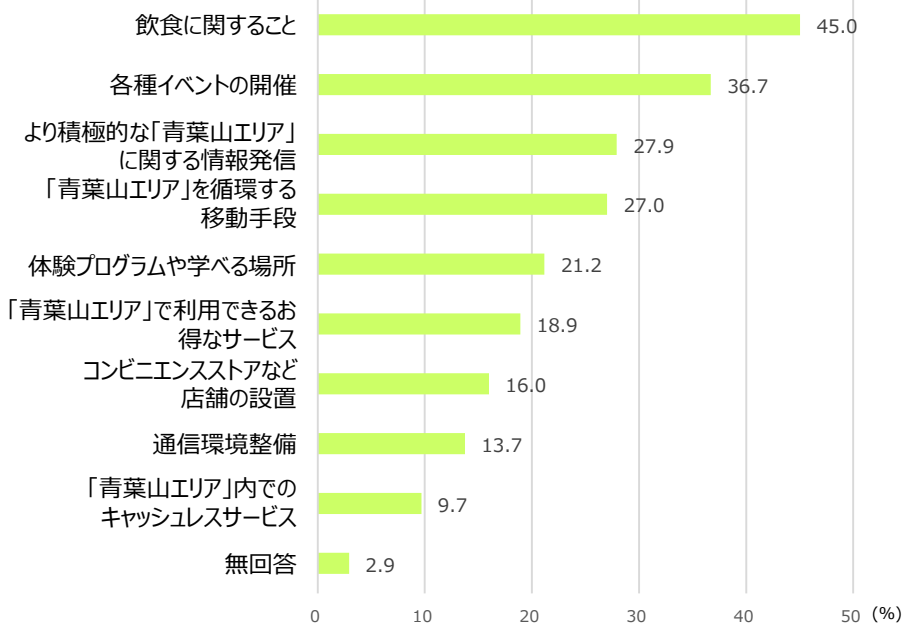
■ 「文化施設」が最も高く、「自然」「観光」「イベント」と続く

Q12 「青葉山エリア」に関する今後の予定で知っていることをすべて選択してください（N = 444）



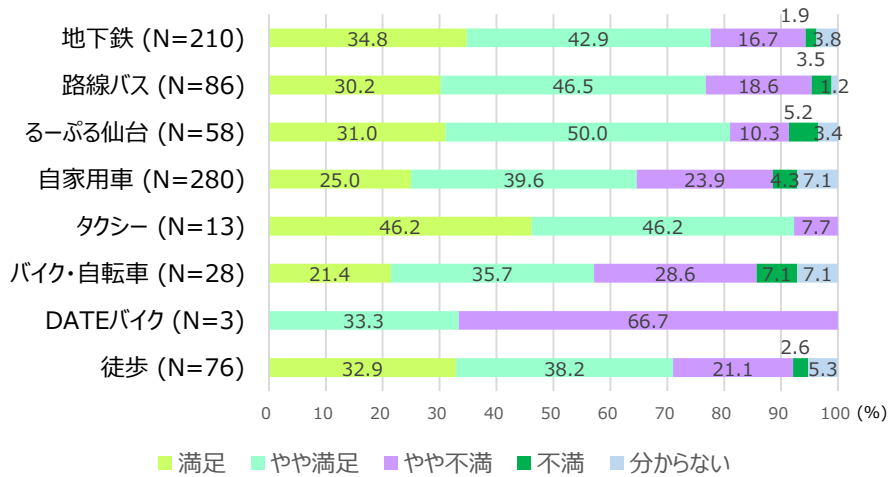
■ 「大手門復元」の認知度が最も高く、「次世代放射光施設」「複合整備」と続く

Q13 「青葉山エリア」に期待すること（もの）を選択してください（期待度の高いものから3つまで）
 （N = 444）



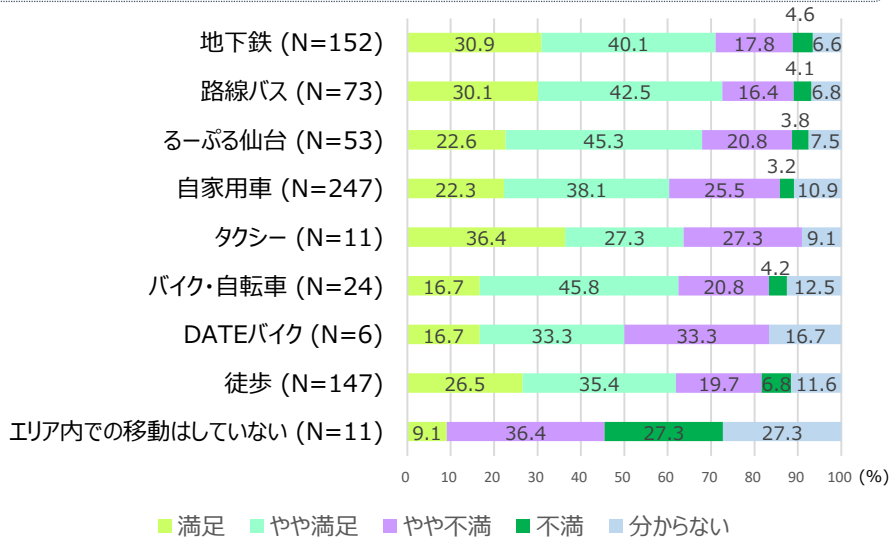
■ 「飲食」が最も高く、「イベント」「情報発信」と続く

Q5×Q7 「青葉山エリア」を訪れるための交通手段別の、訪れる交通手段に関する満足度



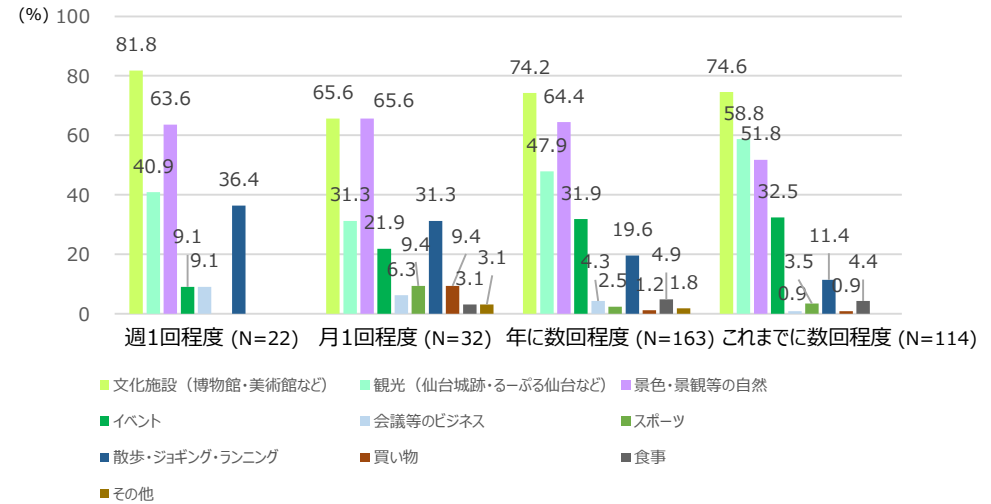
■ エリアを訪れるための交通手段として「自家用車」「バイク・自転車」「DATEバイク」を選択した人は、「満足」「やや満足」の割合が比較的低い

Q6×Q8 「青葉山エリア」内の交通手段別の、エリア内の交通手段に関する満足度



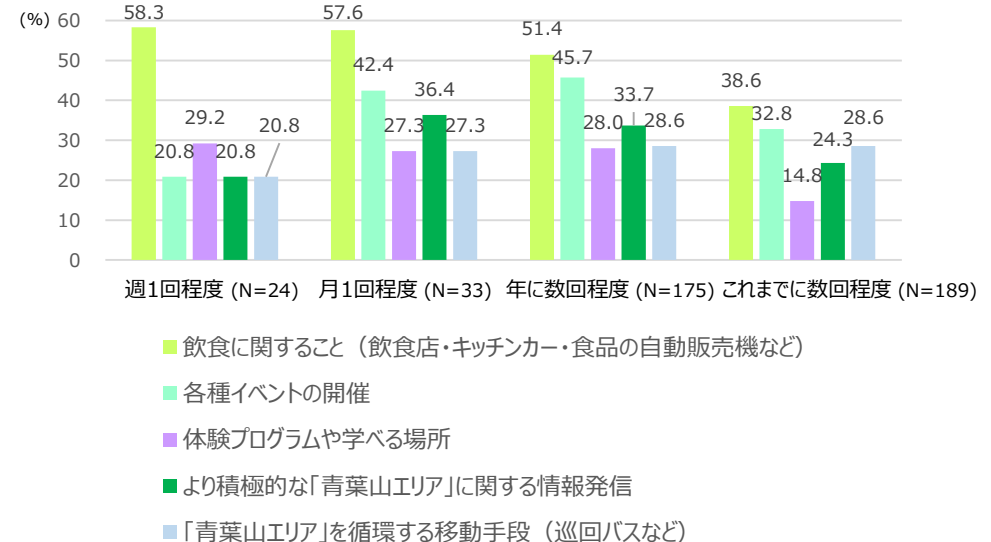
■ エリア内の交通手段として「るーぶる仙台」「自家用車」「バイク・自転車」「DATEバイク」を選択した人は、「満足」の割合が比較的低い

Q3×Q11 「青葉山エリア」を訪れる頻度別の、「青葉山エリア」をまた訪れたいと思う目的



■ いずれも「文化施設」が最も高い
■ 週1回程度訪れる人は、「散歩・ジョギング・ランニング」の割合が比較的高い

Q3×Q13 「青葉山エリア」を訪れる頻度別の、「青葉山エリア」に期待すること（もの）（割合が高いもの5項目を抜粋）

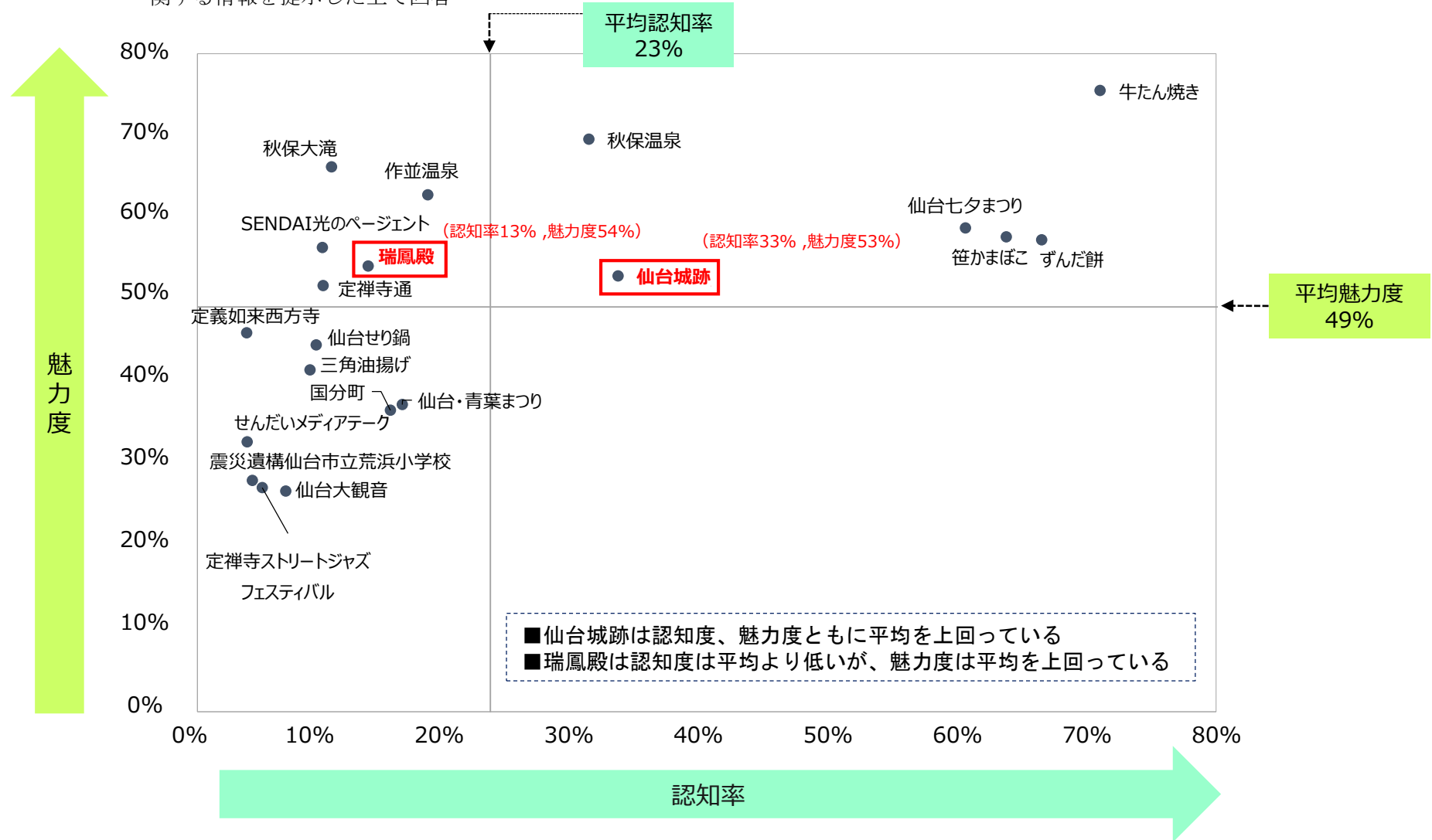


■ 訪れる頻度が高いほど「飲食に関すること」の期待度が高い
■ 週1回程度訪れる人の「イベント」「情報発信」「移動手段」の期待度は比較的低い

(2) 市外の方から見た青葉山エリア

仙台の観光地・観光資源の「認知率」と「魅力度」

- ・ 認知率：観光地・観光資源について「知っている」とされた割合
- ・ 魅力度：観光地・観光資源について「とても魅力を感じる」「やや魅力を感じる」とされた割合。観光地・観光資源に関する情報を提示した上で回答



調査対象：8,583名（北海道・東北（仙台市除く）・北関東・首都圏・中部・関西の20代～70代）

「観光都市としてのファネル構造把握調査」（令和4年2月）より（マクロミル調べ）

4 青葉山エリアで活動している団体の声

エリアで活動をしている市民活動団体や事業者、学生などの方々にお話を伺いました

西公園プレーパークの会

Q. 活動内容、エリアの魅力

毎週月・水曜日と毎月第2土・日曜日に西公園で自然を生かした子どもの遊び場を運営しています。幼稚園や保育所、のびすくのほか、青葉山エリア内で活動するNPO法人や国際センター運営事業者、仙台観光国際協会なども連携し、活動を続けています。

西公園は、都心側から青葉山へ向かう緑の玄関口ともいえ、近くに広瀬川もあり、活動環境に恵まれています。

Q. エリアの課題、期待すること

西公園の北側と南側は歩道橋での行き来となり、定禅寺通など都心との歩行や自転車による往来が課題と感じています。

エレベーターの設置などの環境整備のほか、都心と青葉山エリア相互に人々を引き寄せる仕組みが必要だと思えます。

Q. エリアにおける今後の活動の展開

西公園は、青葉山エリアと都心の結節点として、人々が集う場所を目指したいです。ここに行けば誰かがいて、自然と遊べるというような親子が集える場となるよう、活動を続けたいです。



写真提供：西公園プレーパークの会

「奥州・仙台おもてなし集団 伊達武将隊」 運営事業者（株式会社ハートアンドブレン）

Q. 活動内容

伊達武将隊は、伊達政宗公を中心に、県内外のイベント等に多数出演し、仙台の歴史と魅力をPRしています。

青葉山エリアでの活動としては、青葉城本丸会館さんや仙台市博物館、NPO法人仙台城ガイドボランティア会の皆さんなどと連携し、仙台城跡で土日を中心に観光客のおもてなし活動を行っています。

また、パフォーマンス集団白Aさんとも、新たな企画を予定しています。

Q. エリアに期待すること

市民の誰もが「観光といえば青葉山」と言えるエリアになるといいですね。

MICE参加者や音楽ホールに訪れた方々がエリアを巡りたくなるような魅力や仕組みづくりが必要です。

Q. エリアにおける今後の活動の展開

仙臺緑彩館の運営事業者とも新たに連携し、エリアの玄関口となる青葉山公園と仙台城跡両方で、仙台ならではのコンテンツを提供していきたいです。

また、青葉山公園のライトアップなどナイトコンテンツの充実についても、関係者の皆さんと検討したいです。



写真提供：株ハートアンドブレン

「青葉の風テラス」運営事業者（株式会社 都市設計）

Q. 施設の魅力

青葉山エリアの玄関口である地下鉄東西線国際センター駅の駅舎上部にある多目的スペースや芝生が広がる屋外テラスからなる施設「青葉の風テラス」を3社で運営しています。市民イベントのほか、国際センターでの学会等のアフターパーティー会場などとして、市民をはじめ多様な人々の賑わいの場として活用されています。

テラスは、都心の街並みと広瀬川が調和した最高のビュースポットです。



写真提供：株式会社 都市設計

Q. エリアの課題、期待すること

エリア内のコンテンツ（様々な資源）に、回遊性を呼ぶ仕掛けがされていないため、それを作ることで一日回って楽しめるような場所になるポテンシャルを秘めていると思います。

「仙台は日中どこに行ったらいいか分からない」という声をよく聞きます。「青葉山エリアは一日過ごせて気持ちいいですよ」と案内できるようなエリアになることを期待しています。

Q. エリアにおける今後の活動の展開

市民や観光・MICEなどの来訪者、企業の方々など様々なプレーヤーに青葉山エリアを色々な形で訪れ、使ってもらえるハブに「青葉の風テラス」がなれるよう、エリアを盛り上げていきたいです。

その他のご意見

Q. エリアの印象、魅力

- ・都市、歴史、自然の3要素が融合した特別な場であること
- ・豊かな自然、大学のキャンパス等が市民にあまり知られておらず、大きな可能性を秘めている
- ・自然と調和した仙台城跡は、他の城にはない大きな魅力である

Q. エリアの課題

- ・施設は充実しているが来訪者を満足させるソフトコンテンツが不足している
- ・観光面において、エリアの情報発信が十分とは言えない
- ・カフェなど人々が集える場所が少ない
- ・歩いて楽しめる工夫が必要

Q. エリアに期待すること

- ・エリア関係者による連携組織
- ・大学の資源が開かれ、市民の学びの場となること
- ・大学との連携による市民向けイベントの実施
- ・エリアの滞在時間を延ばす仕組みづくり
- ・都心との連携
- ・市民の日常使いの憩いの場となること
- ・遊歩道や河川敷の整備など広瀬川の活用
- ・豊かな自然を生かしたコンテンツづくり
- ・心と体の健康を増進するような「歩くエリア」となること
- ・若者がわくわくし、行きたくないような場になること
- ・青葉山公園が大学生も身近に感じられるような空間になること

検討経過

令和4年5月～6月

青葉山エリアに関する市民アンケート実施

令和4年8月30日

第1回青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会

令和4年9月25日

青葉山エリアに関する市民シンポジウム
(仙台国際センター 参加者約200名)



令和4年8月～9月

エリア関係団体（市民活動団体、事業者等）へ
ヒアリング実施

令和4年11月8日

第2回青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会

令和4年12月23日

第3回青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会

令和5年1月23日～2月22日

ビジョン中間案に係るパブリックコメント（予定）

令和5年3月

第4回青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会（予定）

青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会 委員名簿

氏名	所属・役職等
座長 宮原 育子	宮城学院女子大学現代ビジネス学部 教授
座長代理 榑原 進	特定非営利活動法人都市デザインワークス 代表理事
姥浦 道生	東北大学大学院工学研究科 教授
紫富田 薫	株式会社コングレ 専務取締役
庄子 真岐	石巻専修大学経営学部 教授
高山 秀樹	仙台商工会議所 常務理事・事務局長
深澤百合子	東北大学 名誉教授
松田 法子	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授
藻谷 浩介	株式会社日本総合研究所 主席研究員

※五十音順、敬称略